

心豊かな暮らし

縁  
en

<http://www.yabashi.co.jp/house/>

2007 Vol. 2

季刊

縁

2007 Vol.2

心豊かな暮らし  
contents



13 矢橋グループ海外事業紹介  
ベトナムをご存知ですか？  
■連載  
中山道赤坂つれづれの記 文／清水 春一  
赤坂お茶屋屋敷（二）

11 漆と付き合う  
漆器ができるまで — 素材づくり —

9 矢橋グループの街づくり「川のほとり」「G.O.北大垣」  
豊かな環境で暮らす幸せ

7 史跡 赤坂お茶屋屋敷  
矢橋家の牡丹園

3 ■特集  
大垣で  
スローライフ

岐阜県 I 様邸



春の三宜亭  
光を浴びてきらきらと輝く。

■特集

# 大垣で スローライフ

岐阜県 I 様邸



自社オリジナル無垢フローリングのリビング



和室にて親子がふれあう



リビングで楽しそうに遊んでいる子供たち



庭の木々たちが芽吹き春の訪れを  
告げている  
リビング前のウッドデッキへと繋  
がるアプローチ



お気に入りのウッドデッキで笑顔のご家族

子供たちは、その実を小鳥よりも早く食べてしまうのだとか。  
名古屋ご出身のI様、ご実家は交通量の多い国道の近く。玄関を開けると目の前を電車が走っているという所だそうで、現在線路沿いにお住まいですが、電車の音は気になるところかむしろ懐かしいとのこと。今ではご家族全員が電車好きになってしまったそうです。



障子を開けると外には電車が見えるというお気に入りの和室



右から／折り紙を折る娘さんと優しく見守るお父さん／無垢フローリングと自社塗装の階段／最寄り駅とみんなが大好きな電車



## 木のぬくもりで癒される。

I様には、自社オリジナル無垢フローリング、そしてオリジナル塗装を非常に気に入って頂き、ホール、リビング、ダイニング、廊下は無垢フローリングを。ドア、階段そして、照明器具の木製枠を自社で塗装させて頂きました。  
この木のぬくもりが、裸足でかけまわる小さな子供たちの心にも届けばと思います。

スロースライフとは？「一見ムダだと思われるスペースを楽しむことだと思えます。」と。木々の芽吹きや花の香りで四季を感じ、ちよつとしたスペースに時のものを飾る。I様は、この様なことを大切にし日々過ごされている様です。  
休日には植物たちと共にウッドデッキで食事をしたり、子供と一緒に電車を見たりして家でのんびりと過ごされているそうです。



木材事業本部 住宅部  
営業担当  
主任 早崎 信治

当社のオリジナル塗装した無垢のフローリングを非常に気に入って頂け、階段、リビングダイニングの扉とリビングの主照明の木製枠まで同じ塗装で統一し、提案させて頂きました。満足して頂いているとお聞きし、非常にうれしく思っております。これからも末長くお付き合い宜しくお願いします。



玄関先のかわいいクローバーたち

庭の木々を「この子たち」と呼ばれていたのがとても印象的でした。  
自社の山にて、ご家族が選ばれた山木、シンボルツリーの房桜が、ご家族と共に微笑んでいます。

岐阜県大垣市。そういうと名古屋からずいぶん離れた町というイメージですが、実は電車（JR）でたった30分！  
今回お話を伺ったI様は名古屋にお勤めされています。「朝の通勤も大垣駅発の電車なので、ゆつたり座れますし、通勤時間は睡眠に使っています。」とI様。  
「こちら（大垣）は虫の音や鳥のさえずりも聞こえ、夜には星も見えます。空気もきれいで、水もおいしい。公園も近くにあるので、子育てにも、とても良い環境ですね。近所の方々も声をかけてくれますし、街全体があたたかい感じですよ。」  
隣で折り紙を折る娘さんを、やさしく見守りながらそうお話しして下さいました。  
庭には、念願であった芝生にウッドデッキ、そしてシンボルツリーの房桜。ブルーベリーも植えました。

## 名古屋で働き大垣でくつろぐ。



お茶屋屋敷に咲く櫻



牡丹園の様子



長年このお茶屋屋敷にて牡丹等のお世話を  
する小椋さん

所在地：岐阜県大垣市赤坂町 226  
お問い合わせ 0584-71-0820



色鮮やかな牡丹

史跡 赤坂お茶屋屋敷

# 矢橋家の牡丹園

梅が咲き、櫻が咲き、そしてすがすがしい緑の中に華やかに牡丹の花が開く頃となつて参りました。今年かえつたばかりの、雛がさえずつて若竹の藪に飛び交うでしょう。当園の牡丹850本も春を迎え、今年も見事な花を咲かせることでしょう。

当園の牡丹は、明治・大正・昭和にかけて故矢橋龍吉翁が史跡お茶屋屋敷内の花畑に、自然を愛し種々の優雅な草木とともに昔ながらの有機農法のもと、丹精こめて栽培してきたものです。

永きに渡り大切に牡丹を作り続けて頂いた先代のころを受け継ぎ、今もお咲き続けています。

一年三六五日手入れした牡丹の花をめでてやつて下さい。

約六千坪の牡丹園には、約百五十年経つという古木から若いものまで老若年輪にふさわしい多種な趣きの花が咲き乱れております。

慶長九年（一六〇四年）の春、徳川家康は、美濃国諸大名に命じ織田信長の岐阜城千畳敷御殿をここ赤坂に移築させた。

開設された当時は、総面積約一万五百坪の城郭の構えを持つ屋敷であり、中山道の休憩場として利用していた。

しかし、寛永年間以後は廃絶した。そして、明治維新のとき、払い下げを受けた矢橋家がその跡を守り続けている。

春に訪れて頂きました皆様にはきつと色とりどりの華麗な花と甘い香りに季節を感じて頂くことができますと思います。また、牡丹は時々刻々に姿を変えと言います。厳しい寒さに耐え、ひっそりと咲く「寒牡丹」。その姿も是非一度ご覧になってみて下さい。

門は1年中開け放しです。

どなた様にも何のおもてなしも出来ませんが御心おきなく御来園くださいませ。



相川のこいのぼり

川のほとりは、自然豊かな環境を生かしてつくられた街です。遠くを見れば伊吹山や養老山脈が見え、近くを流れる相川では、この季節になると満開になる桜並木があります。分譲地内には、昔から自生していたエノキという一番大きな木とその周りに生えていた竹林をそのまま残した公園を造りました。

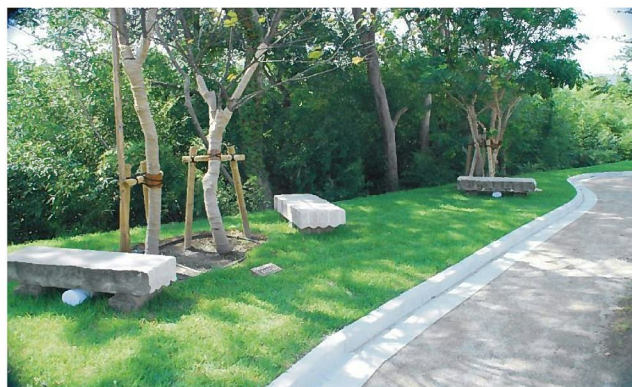
ゆるやかな曲線を描くメインストリートには青空がきれいに見えるように電柱をなくして、各宅地内に、「かぞくの木」と呼ぶことにした落葉樹を植えています。お客様が自分達の宅地内に植わっている木に名前を付け、家族の成長と共に「かぞくの木」を可愛がって頂けるのが私たちの願いです。

このような環境で育った子供達は、虫の音、鳥の声や四季折々に咲く花の香りなど、自然の恵みの大切さを感じ取り、人として大切なものを育んでいくことでしょう。

自然の大切さを感じることで、自分の家だけでなく、お隣の方、またその隣の方と、どんどん街づくりに関心が高まり、皆様でつくることの喜びを楽しんで欲しいものです。そんな街であれば、家族の絆はもとより、古き良き時代には当たり前だった、ご近所とのコミュニケーションも自然と出来るのではないのでしょうか。

庭の小さな畑で育ったキュウリやナスなどをおすそわけしたり、花の好きな人が玄関先に鉢植えなどを置けば、みるみるうちに街の中に花が溢れる。こんな街であれば、子供から大人まで安心して過ごすことができるはずです。そんな街は私たちだけでなく、皆様の手でつくっていくものではないでしょうか？

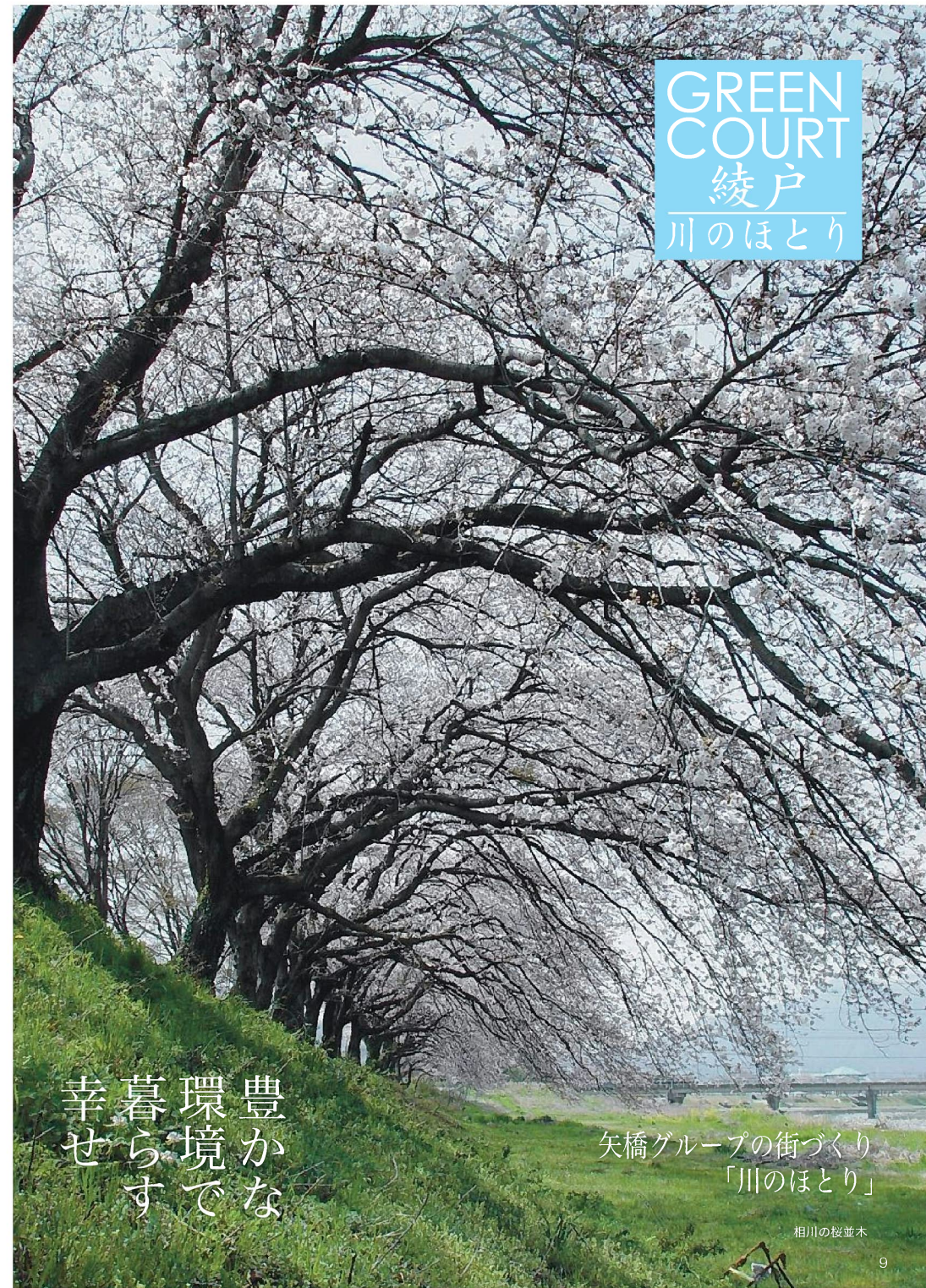
(住宅部 企画 主任 高崎順治)



川のほとり内「みんなの公園」



相川の土手で見つけた菜の花

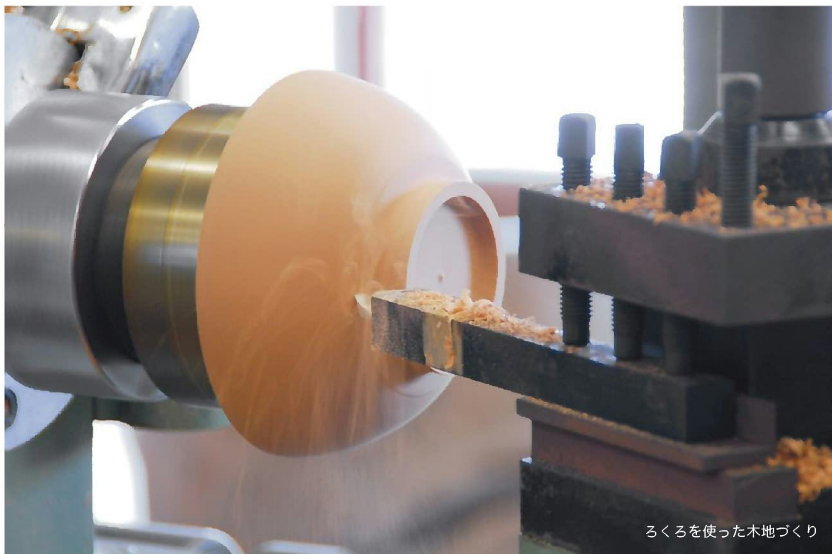


GREEN  
COURT  
綾戸  
川のほとり

豊かな  
環境で  
暮らす  
幸せ

矢橋グループの街づくり  
「川のほとり」

相川の桜並木



ろくろを使った木地づくり

矢橋林業の倉庫には、膨大な量の材料となる木材が眠っています。堆く積まれたこの木材を見上げていると圧倒されてしまいます。この倉庫では自社の山から伐採した木を一旦天然乾燥させ、その後人工乾燥機へ入れて無理なくゆっくと乾燥させます。そして倉庫へ移動させて養生させます。これは材料となる木のコンディションを整える為に、何年ものかけて行う作業です。そうする事で、割れや歪みなどの少ない上質な材料となるのです。

充分に乾燥された材料の木は、工場内で個割りにされ、ろくろ室で一つ一つ削り出されます。決められた形通りに削る為に、ゲージと呼ばれるならいに沿って削りだしていきませんが、細かな部分は全て手作業。小さな刃物で手仕上げしていくのです。こうして漆器の素材となる材料は自社で作られ、職人の手によって形作られていきます。



七弁華盆の木地を手で彫る



大切な材料が眠る倉庫



時代根来風 七弁華盆

漆と付き合う  
漆器ができるまで

— 素材づくり —

漆

矢橋工房

<http://www.yabashi.co.jp/craft/>



川のほとりの彫刻「そうさん」



川のほとり現況写真（2007年3月撮影）



GREEN COURT 綾戸川  
川のほとり



川のほとりの彫刻「かめさん」

# OPEN TOWN!

mamonaku

## GREEN COURT 北大垣

岐阜県大垣市河間町 全7区画



矢橋林業株式会社

住宅部 〒503-2122 岐阜県不破郡垂井町表佐410-1 TEL.0584-22-0001  
品質マネジメントシステムの国際規格であるISO 9001 認証取得企業

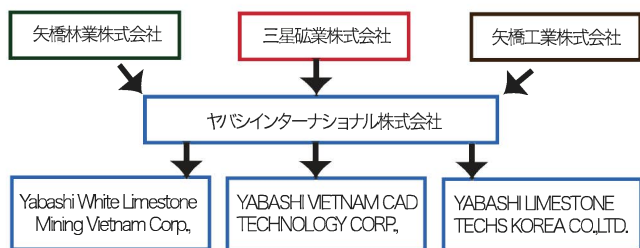
<http://www.yabashi.co.jp/house/>

お問い合わせは

フリーダイヤル

0120-884-039

携帯電話からでもご利用頂けます。



設 立：2000年3月  
従業員：200名  
概 要：設計図面入力  
ソフトウェア開発  
銅板加工データ作成  
鉱山図面入力等



設 立：2002年8月  
従業員：250名  
概 要：鉱山の石灰石を採掘  
加工し、輸出する。



Vietnam 産原石



VINACAD 事務所 正面玄関



VINACAD 事務所内



鉱山景観図



ChauCuong 鉱山



鉱山で働く社員



CuaLo 港



一部 外務省 HP より抜粋

## ベトナム社会主義共和国の基本情報



面積： 約 33 万km<sup>2</sup>  
人口： 約 8,312 万人 (2005 年末)  
(ハノイ：約 400 万人 ホーチミン：約 600 万人)  
首都： ハノイ  
民族： キン族 (越人) 約 86%、その他 53 の少数民族  
宗教： 仏教 約 80%、カトリック他  
言語： ベトナム語  
行政区分： 61 省・直轄都市  
(ハノイ・ホーチミン市・ハイフォン・ダナン)



ハノイ 民族博物館

南シナ海に沿って南北に長く延びるベトナム。首都ハノイを中心にした北部では中国の文化が強く残り、ホーチミンを中心とした南部は、熱帯の陽気さと活気あふれる。千年の歴史をもち政治の中心となつていく街ハノイ。市内には川と湖が点在し、街路樹も多く、落ち着いた雰囲気。旧市街にはシルク製品や陶磁器、漆絵などの伝統工芸品の店等が軒を連ねている。

弊社は、一九九二年より調査を開始し、二〇〇〇年に鉱山会社を創業して以来ベトナムでは、主に鉱山事業と設計図面入力業務を行っている。設計図面入力業務は、住宅の設計図面、プレカット (材料) 加工データ、鉱山図面等の入力業務を行っている。その他にも、ソフトウェア開発や空調機器の見積もり、銅板加工データ作成業務等も行っている。

現在、弊社社長をはじめ、5 人の日本人社員、500 人のベトナム人社員が一緒に仕事をしている。我々は、今後も経済効果のみならず、勤勉で人情深いベトナム人と共に歩んでいきたいと考えている。

## 矢橋のめざすもの

矢橋の事業ポリシーは「人間探求」です。また、社員に対しては才能を発掘し開発し、充実した人生を送る事を追求しなければならぬと考えております。その中で、お客様に対しては人を探求し、人が幸福で豊かな人生を送る為、我々が何をすれば良いのかを追求したいと思っています。

最終的な企業の目的は、社会に貢献する事だと思っています。また、矢橋のメンバーは社会に貢献したいという情熱が最も必要だと考えています。矢橋は社会に役立つ事によって存在を見いだされるという信念をもって、あらゆる事業に取り組みでゆくべきだと考えており、日々努力を重ねております。

この考え方は、世界中のどの国にあつても矢橋の社員は同じであります。国籍、性別の差なく「人」という基本に立ち返り矢橋の社員は「社会一人への貢献」という原点で事業を行います。

Vietnam でも韓国でも、日本でも我々が役に立つ事がたくさんあります。事業を通して、多くの人と関わり、才能を発掘して開発し、共に社会に貢献し生きて参りたいと思っています。

矢橋林業株式会社

代表取締役社長 矢橋龍宜



漆絵



パッチャン焼



シルク製バック

矢橋グループ海外事業紹介  
ベトナムをご存知ですか？

# うみゆり連載集

## 中山道赤坂つれづれの記

### 赤坂お茶屋屋敷（二）

清水 春一

赤坂お茶屋屋敷は昭和二十年（一九四五）三月二十七日、岐阜県指定史跡となりましたが、同二十九年県条例の改定で再指定されぬまま、当時の赤坂町指定史跡でした。それが昭和四十二年九月一日の大垣市へ合併と同時に、大垣市指定史跡となっています。



お茶屋屋敷史跡

お茶屋屋敷の規模の大きさは記録を訪ねてみますと、東西八十七間（百五十八メートル余）、南北八十九間（百六十一メートル余）の内に凸凹の土塁と空濠を巡らし、外郭（二の丸）と内郭（本丸）を区画し、ほぼ方形に近い構えで、四隅には小高い櫓跡があり、また東面中央部の大手門辺りにも櫓跡の土壇があつて、それぞれ哨兵を配置する構造が窺われます。

その内部（本丸）に当たる部分は、東西五十七間（百三メートル余）、南北四十九間（八十九メートル余）の平地になつており、中央の辺り、奥まつた西寄りのところ（現在の赤坂中学校との境界辺りと推測される）に御殿跡と伝えられるものがあります。

小規模ながら全体が厳然たる城郭の構えで、わが国交通史上の貴重な遺跡です。近世初期の本陣の構築を証するものとして非常に得難いもので意義の大きいものがあります。

面積は小規模といいながらも、当時の赤坂村の状況、慶長十四年（一六〇九）の検地帳によると、総屋根数百三



牡丹

十七筆分で三町一反余に対し、お茶屋屋敷だけで三町余の面積があります。これを比較してみると僅かに一反歩ほどの差でしかない、ということです。やはり、將軍専用の旅舎として造営された権威のほどが窺われ、庶民生活との差が推察できる一つの事柄です。

次に赤坂お茶屋屋敷は慶長（一五九六～一六一五）、元和（一六一五～一六四四）を経て寛永年間（一六二四～一七〇四）の初めころまで、およそ二十年ぐらいの期間利用されただけで、その後廃絶しました。

その時代背景を推測してみると、徳川家康から二代將軍秀忠の時代までは

幕府も一応は宮廷（京都）へ奉伺し、天皇家の威光をうかがう必要があつたのですが、三代家光のときになると、もう完全に実権を握り、不動の権威をほしいままにして、將軍がわざわざ上洛する必要がなくなつたことを意味しています。このお茶屋の廃絶が、それを物語っています。



お茶屋屋敷（北入口）



矢橋林業株式会社

